

鼓童文化財団

2005年度 年次報告書



研修所卒業生の鼓童メンバーも勢揃いした2005年11月の収穫祭。お世話になっている地元の方々に御礼の演奏

皆さま、お変わりございませんでしょうか。

2005年という年は、柿野浦に鼓童文化財団研修所を移し十周年という節目の年でした。日本のみならず世界各国に和太鼓のグループが数多くある中で、自らの組織の中に人材育成のための研修所を設けているという例は他に見出すことのできない、生活創造集団・鼓童ならではのものとして、自負できる活動と考えています。

10年間の間に巣立った研修生63名と、その研修の為に培った教育・カリキュラムなどの蓄積は、次なる10年への大きな資産として生かしてゆくべきものと考えております。

そして次なる2006年は、鼓童の前身「佐渡の國鬼太鼓座」を創設して35年、鼓童結成から25年、そして又、私共財団創立十周年という大きな節目です。その節目を次年に迎えるに当たって、2005年は様々な視点から鼓童と、その関連活動について、厳しい考察を伴いながら新たな構築への準備を重ねる年でもありました。

すべての面での「鼓童再考」のこの年は、旧小木町により計画され佐渡市に引き継がれ、国土交通省の離島体験滞在交

流促進事業として建設される『佐渡太鼓体験交流館』の工事が、鼓童村の隣接地で始まりました。この交流館は太鼓をひとつの軸としながらも更に広い分野とテーマを包含した形で、佐渡の文化と人々の交流・研鑽を重ねる活動と発信の拠点として2006年11月からスタートします。鼓童文化財団は、その活動の主體的な役割を担うべく期待されています。

この4月より、かねてから取り組んできた、佐渡産の地域材で造る地産地消の「佐渡の森の恵みで造る家具」アースファニチャーが公的な役割を持つようになりました。新潟県及び佐渡市によって、佐渡の玄関口である両津の佐渡汽船ターミナルの待合室ベンチとして設置されることとなり、アースファニチャーの更なる充実が求められることになりました。

当財団は、このような重要な時期に、昨年度までに継続、定例化してきた活動に増して、更なる活動を予定致しております。今後とも皆様の力強いご支援とご協力、ご鞭撻を心からお願い申し上げます。

2006年3月

財団法人 鼓童文化財団 理事長 島崎信

2005年度 実施事業

(2005年1月1日～2005年12月31日)

文章中、特に明記のないものは佐渡島内の活動です。

1、ワークショップ、講演、シンポジウムなどの開催

太鼓は芸術的な表現媒体である前に、人と人、人と地域を結ぶコミュニケーションの手段であると私たちは考えます。鼓童文化財団では太鼓を使ったワークショップなどを積極的に開催し、演奏における技術指導よりも個々人の可能性をいかに引き出すかに重点をおいた実践研究を行なって、地域に根ざした社会活動の一環として取り組んでいきたいと思ひます。

北米ワークショップツアー

2/12～3/13までのKASA主催事業、カナダ・アメリカ全13ヶ所の太鼓ワークショップツアーに協力。講師には藤本吉利と宮崎正美があたり、佐渡の「山田ハンヤ節」や京都の「和知太鼓」を題材にワークショップを展開しました。

(実施都市：モントリオール/オタワ/トロント/ウィネブ/シカゴ/デンバー/トゥーソン/フェニックス/エミリーヴィル/サンノゼ/ホノルル/カウアイ/マウイ)

第5回北米太鼓会議に参加

7/15～17にロサンゼルスで開催された第5回北米太鼓会議に鼓童から菅野敦司・山口康子・千田倫子が、加えて地元佐渡から鬼太鼓の団体、春日鬼組の7名が参加。今年は鼓童がこれまで地元佐渡島内各地の、暮らしの中の芸能を研究学習してきた成果を込めて初めて佐渡の鬼太鼓を紹介し、ワークショップやレクチャー、リトル東京での門付けなど好評を得ました。(関連記事：鼓童機関誌2005年8月号)

KASA/MIXツアー

アメリカの民族音楽グループRhythMixとKASAの共催による、日本の音楽文化を知る「KASA/MIXツアー」に協力。そのうちの佐渡での4泊5日を鼓童文化財団研修所を宿舎に、唄・踊り・太鼓や地元の鬼太鼓見学、研修生との交流などの体験を楽しんでいただきました。参加者はアメリカ・カナダ・フランス・ドイツから25名。講師には鼓童から小島千絵子・藤本容子・齊藤栄一・宮崎正美があたり、また地元佐渡、赤泊の山田やまびこ会の方々から「山田ハンヤ節」を教えていただきました。

太鼓体験塾

ECイベントとして6ヶ所を回り、佐渡島内の皆さまに和太鼓の楽しさと、手軽な打楽器アンサンブルとしてのサンバを紹介しました。講師には鼓童メンバーの山口康子、石原泰彦があたり、のべ160名の参加をいただきました。

6/18 金井地区/相川地区 サンバ篇

6/25 佐和田地区 太鼓篇



北米ワークショップツアー



北米太鼓会議：春日鬼組、リトル東京での門付け



小倉小学校ワークショップ



太鼓体験塾サンバ篇

6/26 羽茂・小木・赤泊地区 太鼓篇
7/10 新穂・畑野地区 太鼓篇

鼓童塾

佐渡の豊かな自然の中で、鼓童のメンバーを核に様々な人々が集い、学び合う宿泊ワークショップを開催しました。

齊藤栄一の太鼓篇「熱き思ひ」9/21～9/25
佐渡市柿野浦・鼓童文化財団研修所

研修生と佐渡の学生との交流公演

7/19 羽茂高校赤泊分校40名と小倉小学校20名との
交流演奏会

10/18 佐和田中学校 1年～3年 250名対象

10/20 金井中学校 1年～3年 200名対象

また、今年も6月と10月に研修所近くの畑野地区松ヶ崎中学校の生徒さんと、太鼓や音楽に留まらない学校活動に参加するなど、交流を継続しています。

地域の学生への授業および教育機関との連携

- ・十河伸一 小木幼稚園 太鼓ワークショップ 2月
- ・大井良明 深浦学区「岬太鼓」、「岬組」の指導 通年
- ・宮崎正美 小木小学校 太鼓ワークショップ 9月
小倉小学校 太鼓ワークショップ 11月
羽茂公民館 太鼓ワークショップ 1月、11月
- ・石原泰彦 新潟大学留学生対象太鼓ワークショップ 9月
両津公立保育園児対象ワークショップ 11月
佐渡教職員対象 太鼓ワークショップ 11月
- ・セントルイスシンフォニーオーケストラメンバーの渡辺杏、渡辺絢子両氏（The Watanabe Duo）によるヴァイオリンとハーブの演奏会開催に協力。
羽茂保育所 / 大滝小学校 / 小木小学校 /
深浦小学校 / 小倉中学校 7月
- ・民族音楽家のタブ・ザウォセ氏（タンザニア）とティムのメンバー（ロシア連邦サハ共和国）の演奏会に協力。
深浦小学校 10月

その他、ワークショップ

佐渡を訪れた修学旅行者対象の太鼓ワークショップ
（6月、9月、10月 / 指導：宮崎正美、大井良明、十河伸一）
上越市立...北諏訪小学校 / 黒田小学校 / 保倉小学校 / 春日小学校 / 東本町小学校
新潟市立...山潟小学校 / 中之口西小学校 / 入船小学校 / 本田小学校 / 大淵小学校
長岡市立...越路西小学校 新発田市立...御見町小学校
長野市立...グリーンヒルズ小学校

9月～10月に北米で行われたKASA事業、渡辺薫の笛のワークショップに協力しました。

（開催都市：シアトル、ロサンゼルス、サンノゼ）

講演など

千田倫子 新潟大学講座 5月
山口幹文 佐和田「佐渡再発見講座」 6月
菅野敦司
・佐和田「佐渡オルタナティブ・ツーリズム・ミニシンポ」
～佐渡の資源をどうツーリズムに結びつけるか～ 10月
・上越「ばかん栄プロジェクト」
新潟県観光復興戦略会議委員 7月～12月

佐渡を応援する講演会シリーズ「ここが地球の真ん中です」

鼓童文化財団の評議員でもある永六輔氏が、島民と共に考え佐渡を応援する講演会シリーズ。主催者を募り、スケジュール調整や運営に協力して、10月に4ヶ所で開催しました。
相川地区「寺子屋たすく文庫」 / 金井地区「佐渡高校金井校舎」 / 両津地区「加茂歌代公民館」 / 両津地区「鼓童文化財団研修所」

2. 伝統文化の再創造に関する研修および実践（研修所）

鼓童文化財団に所属する研修所では、広く内外から研修生を募集し、豊かな自然と芸能の宝庫である佐渡において、体験的学習を通して次代に伝えるべき「新しい伝統」の創造を目指します。研修制度は2年制で、1年目は伝統文化の基礎を研修する総合課程、2年目は鼓童の活動を通じて実践的な力を養う専門課程となります。

佐渡市柿野浦の旧・中学校校舎で1、2年合わせて20名が、日々太鼓や唄や踊り、農作業などと向き合い、生活を共にしてきました。2006年1月をもって1年10ヶ月の研修を修了した23期生は小畑端美、堀口育美、朝元尊、加藤拓三、桜井佑樹、高野智之、高橋勲雄、津村和宏、中込健太の9名。それぞれの新たな目標に向かって巣立ち、そのうち4名が準メンバーとして鼓童に残りました。

（特集記事：鼓童機関誌2005年12月号）



羽茂保育所にて：渡辺デュオによるヴァイオリンとハーブの演奏会

3、アクション・ライブラリーの運営

鼓童の国内外での活動記録をはじめ、佐渡で開催している国際芸術祭「アース・セレブレーション」の足跡、および伝統文化についての調査研究・資料収集の成果を、広く国内外の方々に利用していただくための図書館を将来的に運営したいと計画しています。これは関連図書・音響映像・収集資料を展示紹介してだけでなく、一般の方々がより親しみやすく相談し参加体験できる形を模索したアクション・ライブラリーとして「行動する図書館」を目指すもので、インターネットなどを通じて情報を公開していきたいと思ひます。

鼓童の書籍・ビデオ等約9900冊、レコード6000枚についての整理が終了しました。また新たに寄贈いただいたCD14000枚を含む、新規・寄贈資料への対応をすすめています。

鼓童ホームページ（日本語・英語）は月に1度ほど更新をしています。月平均約5,000件のアクセスがありました。

4、国際芸術祭「アース・セレブレーション（EC）」の実施

鼓童が地元のみ町村とともに実行委員会を組織し、'88年より毎年開催している国際芸術祭を、今後ともその質的向上を目指して実施していきます。この芸術祭では、世界各地の民族音楽・芸能の専門家や研究者を招き、佐渡の自然の中で新しい「地球文化」の可能性を探るとともに、各地の伝統文化の紹介を通じてその振興をはかっています。海外からの参加者を積極的に働きかけて国際交流を促進し、次の世代への芸術的な基盤形成につとめます。

8/19～21に行われた18回目の本芸術祭では、城山コンサートのメインゲストにスペインのケルト音楽家、カルロス・ヌニェスと、書家の柿沼康二を迎え、のべ7000人の方が佐渡市小木地区に集いました。

また今回初めて佐渡の芸能をまとめて紹介する場を設け、相川高千地区から7団体120名の参加を得ることができました。春日鬼組のワークショップや、佐渡のバンドのフリンジ参加も3年連続となり、近年、佐渡島内からの参加者も増加しています。（特集記事：鼓童機関誌2005年10月号）

主な出演者

城山コンサート

鼓童、カルロス・ヌニェス（スペイン）、柿沼康二

ワークショップ等

- ・渡辺亮「サンバで遊ぼう」
 - ・カルロス・ヌニェス「ケルト文化」
 - ・エド・コリアー「フラ・ワークショップ」
 - ・蘭情「蘭情さんの笛工房」
 - ・三宅島芸能同志会の皆さん「三宅太鼓」
 - ・マサヒロ水野「江戸祭囃子」
 - ・春日鬼組の皆さん「春日鬼太鼓」
 - ・小木の皆さん「小木おけさ」
 - ・藤本吉利「和太鼓」、小島千絵子「鼓童で踊ろう」
- 特別フリンジ等
- ・木村俊介、時廣真吾「宵のゆんづる流し」



EC城山コンサート：カルロス・ヌニェスと鼓童



ECフリンジ：「柿沼康二&鼓童」



ECフリンジ：「佐渡の芸能」



EC連続ワークショップ：「サンバで遊ぼう」10周年

- ・ウィンドアンサンブル佐渡
- ・相川高千地区～北田野浦/千本/北立島/北川内/後尾/石花/南片辺、各集落の皆さん「佐渡の芸能」展示等
- ・遠山サキほか「アイヌ伝統工芸」展
- ・島崎信ギャラリートーク&「アースファニチャー」展
- ・木と遊ぶ研究所による「鼓童村公開、森の案内」

5、伝統文化に関する調査研究および資料収集

人類が長い年月を経てかたちづくり、伝えてきた世界各地の様々な伝統文化（特に民族音楽・芸能・工芸）とりわけ佐渡を中心とした調査研究を行なうと同時に、その資料収集を積極的に進めます。

アースファニチャー（佐渡の森の恵みで造る家具）

佐渡の杉で創る、地域循環型の生涯家具。今年は以下の各地で、里山の活性化と子ども達への環境学習を提案する学習機と、大人用の事務机を展示販売しました。

2月...新潟ユニソンプラザ/新宿タカシマヤ

8月...EC2005フリーマーケット内、ワークショップテント

10月...佐渡汽船両津港待合室にベンチの導入決定

2006年4月より、設置されることになりました。

【アースファニチャー】

企画提案：鼓童文化財団

デザイン：島崎信（当財団理事長）

アシスタントデザイン：中野公力（島崎信助手）

テクニカルアドバイス：関原剛（協同組合ウッドワーク顧問）

製品製作：西須殉治（指物職人）

協力団体 南佐渡森林組合/深浦小学校/協同組合ウッドワーク/NPO法人「木と遊ぶ研究所」

6、伝統文化研究者・文化活動制作者への支援

太鼓を中心とした伝統的な音楽芸能の修得と、現代的な再創造を試みる集団「鼓童」。その鼓童に所属する研究者の調査・稽古・創作活動に対して支援を行なっています。また、文化活動の現場を支える制作者の受け入れや、関連団体への派遣なども行ない、国内外での文化交流を推進します。

鼓童メンバーに対し舞台に関連する調査を支援しました。

阿部一成、ほか3名

長崎県対馬の阿連地区盆踊りの調査 8月

2月に佐和田で行われた「佐渡吹奏楽フェスティバル」に協賛しました。

将来の日本公演の準備の為に来日していたタンザニアの演奏家、タブ・ザウォセさんが研修所を訪れ、研修生と交流を持ちました。タンザニアの楽器や歌・踊りと、和太鼓について学び合い、演奏でお互いの理解を深めました。 10月

ロシア連邦サハ共和国の民族音楽グループ、ティムヘ宮崎正美が太鼓指導をしました。 10月



ECフリンジ：WS講師マサヒロ水野さんによる「江戸祭囃子」



EC展示：アイヌ伝統工芸「ウヌコルタラ三世代展」

7、年次報告書および関連図書の刊行

鼓童文化財団では、1年間の活動を報告し、事業や財団施設の利用情報を提供する年次報告書を発行します。また、研究・創造活動の成果を発表する出版物も随時発行します。

年次報告書を4月に発行し、鼓童の会の会員の方、鼓童文化財団に寄付を寄せてくださった方々にお届けしました。

8、鼓童の会の運営

鼓童文化財団は鼓童の活動に社会的な価値を見出し、共感する個人によって支援される「鼓童の会」を運営します。毎月発行される機関誌を送付して活動への参加を呼びかけ、今後の事業に対する希望を募ります。

鼓童の会の会員の方々をはじめ各関係者に機関誌（月刊「鼓童」を年11回、あるいは英文季刊誌「Kodo Beat」を年4回）お送りしています。

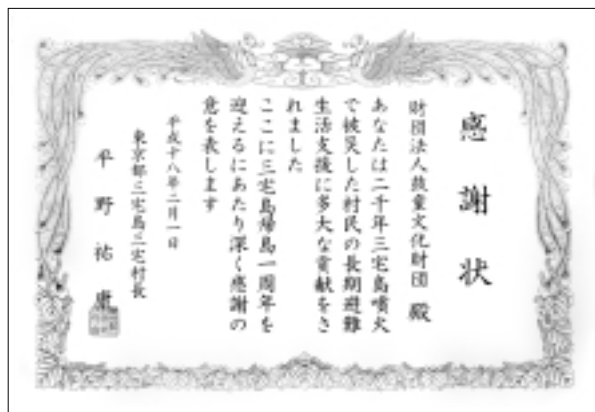
9、その他

12月の財団理事会において、1名欠員となっていた監事に佐藤一行氏の新任が承認されました。

2000年の噴火直後に呼びかけを開始いたしました「鼓童文化財団 三宅島募金」の総額は、5,107,092円にのぼりました。この度2006年2月、三宅村村長様より鼓童文化財団宛に感謝状をいただきましたが、これは多くの皆様からのご協力に対し贈られたものに他なりません。ここに報告申し上げますとともに、これまでの皆様のご協力に対し厚く御礼申し上げます。

鼓童では、今後も復興の道のりを見守りながら、自分達ができる支援の形を模索していきたいと考えておりますが、公演会場やホームページでの募金の呼びかけなどは終了させていただきます。今後は三宅島を訪ねることが一番の応援になると伺っております。皆様も機会がありましたらぜひ、「三宅」のふるさと三宅島を訪れていただけましたら幸いです。

2006年1月、1997年の財団設立時より2004年まで評議員を務めていただいております、本間寅雄氏が逝去されました。磯部欣三のペンネームで、佐渡金山史・世阿弥研究など大きな足跡を残され、佐渡についての沢山のご教示をいただきました。生前のご厚誼を深謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



三宅島より、感謝状「ご協力ありがとうございました」

2005年度 決算

収支計算書 2005年1月1日から12月31日まで

(単位：円)

収入の部		支出の部	
基本財産運用収入	3,965,254	事業費	アース・セレブレーション事業費 3,235,050
入会金収入	243,000		太鼓体験塾事業費 510,000
会費収入	7,076,000		鼓童塾事業費 892,941
法人会費収入	100,000		研修所事業費 18,491,739
事業収入	3,150,000		鼓童の会事業費 2,358,445
アース・セレブレーション事業収入	3,150,000		その他の事業費 4,978,406
太鼓体験塾収入	600,000	管理費	給与 2,057,776
鼓童塾収入	1,100,000		会議費 221,780
研修所研修費収入	12,240,000		その他の管理費 833,778
その他の事業収入	3,616,864	固定資産取得支出	0
補助金等収入	0	予備費	0
寄付金収入	2,105,064		
雑収入	1,325,228		
当期収入合計 (A)	35,521,410	当期支出合計 (C)	33,579,915
前期繰越収支差額	5,175,963	当期収支差額 (A)-(C)	1,941,495
収入合計 (B)	40,697,373	次期繰越収支差額 (B)-(C)	7,117,458

貸借対照表 2005年12月31日現在

(単位：円)

資産の部		負債および正味財産の部	
流動資産	現金 4,417	流動負債	未払金 754,026
	預金 4,269,296		預り金 8,195
	未収金 5,401,000		(負債合計) 762,221
	仮払金 350,530	正味財産	113,204,324
	その他 2,958,651		(うち基本金) 100,211,931
固定資産	基本財産 100,211,931		(当期正味財産増加額) 1,684,818
	固定資産(什器備品・車両) 650,612		
繰越資産	製品開発費 120,108		
資産合計	113,966,545	負債および正味財産合計	113,966,545

2006年度 事業計画

1. ワークショップ、講演、セミナーなどの開催
 - (1) 太鼓体験塾
 - (2) 鼓童塾 齊藤栄一の太鼓ワークショップ ... 1回
 - (3) 研修生と佐渡の中学生との交流公演 ... 3回
 - (4) 地域の学校へのお出前授業および交流
 - (5) 北米ワークショップツアー (齊藤栄一・宮崎正美)
 - (6) 小学校修学旅行体験ワークショップ受入
 - (7) 永六輔佐渡島内講演会
 - (8) 森林ワークショップ
2. 伝統文化の再創造に関する研修および実践 (研修所)
 - (1) 総合課程：芸能の基本を学ぶ
4月～翌3月 約10名
 - (2) 専門課程：舞台芸術関係の専門分野を学ぶ
太鼓・笛・唄・踊り・三味線などの稽古
4月～翌1月 約10名
3. アクション・ライブラリーの運営
 - (1) 民俗芸能関係の収集資料の整理
 - (2) 図書・映像資料の整理
 - (3) 図書管理システムの運用
 - (4) ホームページの運営
 - (5) 研修所講義録の編纂
4. 国際芸術祭「アース・セレブレーション」の共催
開催時期を8月とし、小木地区を中心にコンサート、ワークショップ、講演やフリンジなどの恒例の事業を行うほか、佐渡市全島を上げてのイベントとしての展開を始動。
5. 伝統文化に関する調査研究および資料収集
 - (1) 鼓童舞台演目の現地調査研究
 - (2) 鬼太鼓調査研究
 - (3) アースファニチャー事業
 - (4) 佐渡の伝統工芸技能者調査
6. 伝統文化研究者・文化活動制作者への支援
 - (1) 伝統文化研究者の支援 (鼓童舞台演目の出稽古等)
 - (2) 伝統技術継承者の支援 (文弥節記録等)
 - (3) 佐渡職人調査準備
 - (4) 体験交流マーケット調査
7. 年次報告書および関連図書の刊行
 - (1) 年次報告書の発行
 - (2) 鼓童叢書第2号刊行準備
8. 鼓童の会の運営
月刊機関誌「鼓童」、季刊英字機関誌「Kodo Beat」の発送、名簿の管理、会員募集
9. その他
広報活動

財団法人 鼓童文化財団 役員・評議員 (2006年4月1日現在、50音順)

理事長	島崎 信	武蔵野美術大学名誉教授
副理事長	山口幹文	鼓童演出顧問
常務理事	青木孝夫	鼓童代表
理事	浅野昭利	財団法人浅野太鼓文化研究所理事長
	高野宏一郎	佐渡市長
	森 千二	音楽プロデューサー
監事	荒井久夫	税理士
	佐藤一行	鼓童会計顧問
評議員	五十嵐實	税理士、日本自然環境専門学校長
	伊藤文吉	財団法人北方文化博物館館長
	永 六輔	作家
	ジョージ・健・高知	アジア文化会議日本事務局代表
	佐々木 愛	劇団文化座代表、女優
	関原 剛	協同組合ウッドワーク顧問
	等々力好泰	新潟トヨタ自動車株式会社社長
	富田 勲	作曲家
	中川忠夫	元小木町長
	姫田忠義	民族文化映像研究所所長
	クリストファー・遙盟・プレイズデル	尺八演奏家、国際文化会館芸術プログラムアドバイザー
	ロビン・ペリントン	元駐日アメリカ大使館 文化参事官
	本間雅彦	元佐渡・畑野町史編纂委員長
	マーク・ロス	ダイオラマ文化センター ディレクター
	武者利光	東京工業大学名誉教授、ゆらぎ研究所、脳機能研究所所長

2005年度 寄付者一覧

2005年1月1日から12月31日までに寄付をくださった方々は以下の通りです。(敬称略。1口1,000円)

- 1000口 堀口智顕
- 100口 (有)オフセンター
- 30口 小畑真、曾根隆司、蘭情
- 28口 浅野昭利
- 20口 加藤園江、加倉孝啓、佐々木愛、武井京子
- 11口 半澤トクヨ
- 10口 赤嶺良雄、東幸太郎、新井法、井口益男、石垣清美、石塚久、伊藤富貴子、大河内由夫、小倉睦美、鬼澤信夫、幸田国際特許事務所、小島光雄、小杉秀雄、斉藤光子、佐藤惇、穴戸文雄、島内達男、しゃぶbar 柏木、杉浦孝昭、田中ヤスエ、谷口道子、谷口正厚、筒井祖晋、仲修、新畑茂光、沼田益彦、春本博章、前田康宏、望月さなえ、山下典子、山岸稔秋

年次報告書へ名前掲載を希望しない方の寄付金額、および10口以下の方の寄付金額の小計 586,064円
上記の寄付総合計 2,205,064円

2005年度 法人会員
(有)オフセンター

たくさんのご支援をありがとうございました。



2005年度研修生・収穫の秋

財団へのご支援をお願いいたします。

財団法人 鼓童文化財団は、趣旨に賛同くださる皆様のご支援により活動を進めております。

[寄付]

寄付は1口1,000円単位で随時受け付け、毎年4月に発行する年次報告書をお送りします。年に10口以上お申し込みいただいた方には、年次報告書にご希望によりお名前と金額を掲載させていただきます。

ご送金は郵便局備え付けの郵便振替用紙に、お名前、ご住所をお書き添えの上、「00690-9-25829(財)鼓童文化財団」宛にお願いします。鼓童の会にすでにお入りの方は会員番号を、また年次報告書に名前と金額の掲載を希望しない場合は、その旨を通信欄にご記入下さい。

団体名と個人名を併記されている場合は個人名での掲載とさせていただきます。また、財団への寄付は鼓童の会の会費とは異なりますのでご確認下さい。

[後援会と、法人会員制度]

鼓童グループは、公演活動を運営する(株)北前船と、楽器などの開発販売や著作権管理を行う(有)音大工、そして(財)鼓童文化財団という3つの法人で構成されています。研修所の運営や伝統文化の調査研究などを行う財団の事業は、鼓童の活動の根幹を担うものです。

鼓童文化財団は、皆様のご寄付と鼓童の会の会費で支えられております。鼓童の会には友の会・後援会・賛助会の3種類がありますが、財団の活動を支援する気持ちを強くお持ちの方は「後援会」(年会費1万円)へご入会いただければ幸いです。すでに、友の会や賛助会にお入りの方の後援会への切り替えも随時受付いたしております。

また、法人会員制度も設けております。詳しくは下記事務局までお気軽にお尋ね下さい。

財団法人 鼓童文化財団 2005年度年次報告書 2006年4月10日発行
発行責任者...島崎信、編集...菅野敦司、千田倫子
写真...吉田励、宮川舞子、田中文太郎、鼓童

財団法人 鼓童文化財団：
〒952-0611 新潟県佐渡市小木金田新田148-1 鼓童村
TEL. 0259-81-4100 FAX. 0259-86-3631
E-mail. zaidan@kodo.or.jp
<http://www.kodo.or.jp>